

「目標に向かって努力する」

フィリピの信徒への手紙 3章 13、14 節

聖学院大学 事務総局長 田邊 純一

きょうは、「目標に向かって努力する」と題して奨励をさせていただきます。
フィリピの信徒への手紙は、パウロが書いた手紙です。もう一度読んでみます。
「兄弟たち、わたし自身はすでに捕えたとは思っていません。なすべきことはただ一つ、後のものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。」

今日学生の皆さんにこの聖書からお伝えしたいことは、まず①後ろのものを忘れて目標に向かって全力で進むということです。

皆さんは、子供の頃には将来になりたい職業があったのではないのでしょうか。小学生の時は目標というよりも夢でしたね。それが、大きくなるにつれて、夢が具体的な目標になってきたと思います。それでは、皆さんの今の目標は何でしょうか。こうりたい、これをしたい、あれがほしい、など皆さんそれぞれに、小さな目標から大きな目標まで、具体的な目標をいろいろ持っていると思います。

さてここでパウロが言っているパウロの目標はなんでしょうか。その前の聖書箇所を見てみましょう。10 節から 12 節です。

「私は、キリストとその復活の力とを知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりながら、なんとかして死者の中からの復活に達したいのです。

わたしがすでにそれを得たというわけではなく、すでに完全な者になっているわけでもありません。何とかして捕えようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕えられているからです。」と書いてあります。

パウロの目標は、イエス・キリストが約束してくださった、死んだ後の「復活」なのです。自分自身もイエス・キリストと同じ復活にあずかって、キリストと共にいたい、ということではないかと思うのです。

次に皆さんにお伝えしたいことは、②目標を達成するための条件です。

パウロは、目標を達成するための条件を 13 節で言っています。それを見てみましょう。

「後ろのものを忘れる」という言葉があります。つまり過去のことを忘れる、過去のことはずルズル引きずらない、過去の失敗は気にしない、過去の自分を忘れるということと言えます。

それでは、パウロは何故目標を達成するためには「後のものを忘れなければならない」と言ったのでしょうか。

実は、パウロにはとんでもない過去があったのです。拭い去ることのできないとんでもない過去です。

使徒言行録8章1節にこう書いてあります。

「サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。その日、エルサレムの教会に対して大迫害が起きた」とあります。

また使徒言行録9章1節、2節にはこう書いてあります。

「さてサウロは、なおも主の弟子(でし)たちに対する脅迫、殺害の息をはずませながら、大祭司のところに行った。そして、それは、この道の者を見つけ次第、男女の別なく縛りあげて、エルサレムにひっぱって来るためであった。」と。

サウロとは、クリスチャンになって改名する前のパウロの名前です。同じ人物です。

パウロはキリストの伝道者です。罪を贖うために十字架にかかれ、死んで葬られて3日目に復活されたイエス・キリストを述べ伝える伝道者ですが、伝道者になる前のパウロは、イエス・キリストを信じるクリスチャンを殺すことに加担したユダヤ教の迫害者だったのです。このことは、パウロには到底拭い去ることのできない相当苦しい過去だったと思います。今で言えば、クリスチャンを迫害する殺人チームの一員だったのですから。

そんな到底ぬぐいきれない過去を引きずっているパウロが、明確な意思で、自分に言い聞かせるように『後ろのものを忘れなさい、そして前のものに全身を向けなさい』、と言っているのです。

学生の皆さんも、自分自身を振り返ってみたら、過去の忌まわしい思い出や、嫌な思い出や失敗などを忘れられない人がいるのではないのでしょうか。

ホリエモンと呼ばれている堀江貴文さんですが、現在文筆家、タレントですが、彼は、過去に証券取引法で逮捕されて約3年の懲役刑に服したライブドア設立者です。この人がつい最近こんなことを言っています。

「現在に全力投球すれば、過去のことを考えている暇はない」と言っているんですね。

また、ある心理学者はこう言っています。「失敗は成功の元。自分の失敗や過去はこれからの人生の糧になる素晴らしいことなんだと思うことが大切だ」と。

最後にお伝えしたいことは、③具体的なビジョン・目標を掲げて走ると言うことです。パウロは「賞を得るために、目標を目指してひたすら走る」と言っています。

この具体的なビジョン、夢、目標を書いたある小学生の「僕の夢」と言う題の作文を読ませていただきます。

「僕の夢」

僕の夢は一流のプロ野球選手になることです。そのためには、中学、高校と全国大会にでて活躍し

なければなりません。

活躍できるようになるためには練習が必要です。僕は3才の時から練習を始めています。3才から7才までは半年くらいやっていたのですが、3年生の時から今までは、365日中360日は、激しい練習をしています。だから1週間中で友達と遊べる時間は5～6時間です。そんなに練習をやっているのだから、必ずプロ野球選手になれると思います。そして中学、高校と活躍して高校を卒業してからプロ野球選手になれると思います。そしてその球団は、中日ドラゴンズか、西部ライオンズです。ドラフト入団で、契約金は、1億円以上が目標です。

僕が自信のあるのが投手か打撃です。去年の夏、僕たちは全国大会にいきました。そして、ほとんどの投手を見てきましたが、自分が大会ナンバーワン選手と確信でき、打撃では県大会4試合のうちホームランを3本打ちました。そして、全体を通した打率は、5割8分3厘でした。このように自分でも納得のいく成績でした。そして僕たちは1年間負け知らずで野球ができました。

だから、この調子でこれからも頑張ります。そして、僕が一流選手になって試合に出られるようになったら、お世話になった人に招待状を配って応援してもらうのも夢の一つです。

とにかく一番大きな夢はプロ野球選手になることです。

愛知県西春日部郡豊山町立豊山小学校
6年2組 鈴木一郎

これは大リーグのイチロー選手の小学生のときの作文です。イチロー選手は小さい時から、夢を実現させるために、具体的な目標を持ち、計画を立てて、地道に行動をしていたことが分かりますね。

これから皆さんは、聖学院大学を卒業して、その先に就職や進学などの目標を持っていると思います。まだ持っていない人は、是非具体的なビジョン・目標を持って、過去の失敗を糧にして、全力で目標に向かって進んでください。

地味ですが、計画を立てて、一步一步、歩んでください。そして、神様に求めるならば、必ず与えられます！皆さん、頑張ってください。

2017年7月4日 聖学院大学 全学礼拝